

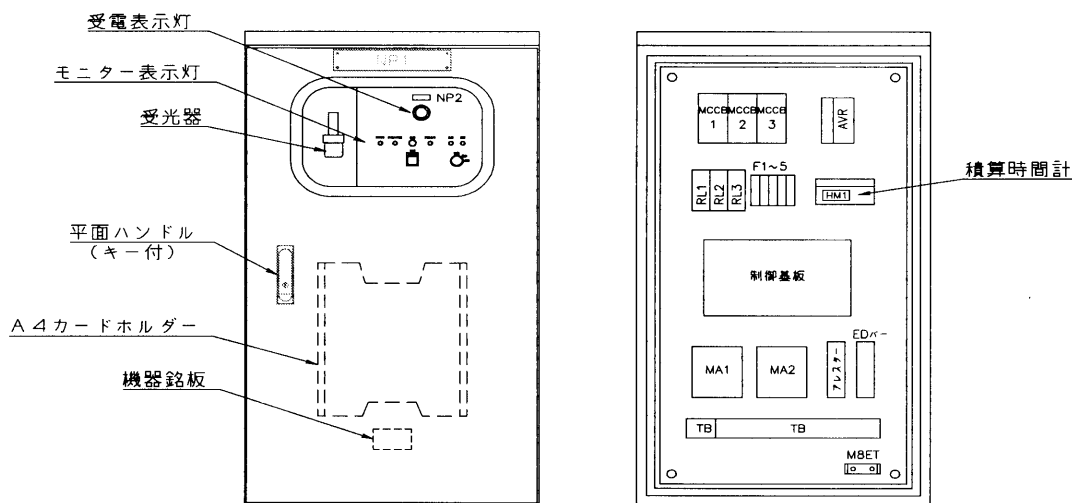
対象機種

中光度白色航空障害灯用 管制器

このたびは東芝中光度白色航空障害灯（FX-7-20K型）および管制器をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。

お求めの中光度白色航空障害灯用管制器を正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。お読みになったあとは必ず保存してください。

各部のなまえ



- 上記の外観図及びなまえは、屋外用（中光度白色航空障害灯 1灯用）の標準的な外形図で記載しています。納入いたしました管制器と一部仕様が違うことがありますのでご注意ください。

ご注意とお願い

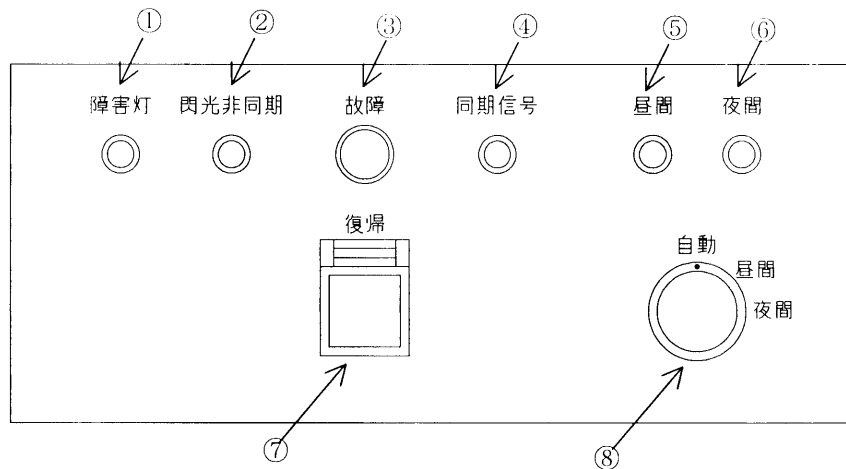
施工、ご使用前に中光度白色航空障害灯の取扱説明書、「納入仕様書および図面」、この取扱説明書をよくお読みの上、正しく施工、ご使用ください。

- 本管制器に供給する電源は航空障害灯専用回路の電源を使用してください。
- 運搬、移動、取付け時に衝撃や過大な力を加えないでください。破損することがあります。

工事店様へ 工事が終了しましたら、この取扱説明書は必ずお客様へお渡しください。
お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

表示操作部名称

【前面操作部】



操作部名称

①障害灯表示ランプ

障害灯が正常に動作（閃光）している時に点灯します。

②閃光非同期表示ランプ

制御基板内の閃光同期信号発生回路に故障が発生した場合に点灯します。

③故障表示ランプ

障害灯の断芯や故障または、管制器に異常が発生した場合に点灯します。

④同期信号表示ランプ

閃光タイミングに同期して点滅（1.5秒間隔）します。

⑤昼間表示ランプ

周辺照度検出器（受光器）にて昼間検知した時、手動切替スイッチによる昼間操作時に点灯します。

⑥夜間表示ランプ

周辺照度検出器（受光器）にて夜間検知した時、手動切替スイッチによる夜間操作時に点灯します。

⑦復帰スイッチ

復帰スイッチを操作することにより、故障表示が解除されます。

但し、自己復帰機能を有する機種については故障要因が取り除かれた段階で自己復帰します。

⑧自動・手動切替スイッチ

障害灯の動作を自動・手動にて切替ができます。

自動：周辺照度検出器（受光器）により、昼間・夜間の切替えを自動でおこないます。

昼間：強制的に昼間モードになります。

夜間：強制的に夜間モードになります。

操作方法

1) 操作手順

- ①受電表示灯が点灯（給電中）していることを確認します。
- ②主幹『MCCB1』、制御回路『MCCB2』、障害灯M『CCB3』の順序で投入します。
※しゃ断器を投入するタイミングによって、まれに故障表示が表示する場合があります。
この場合は、約5秒間後に復帰スイッチを操作して、故障表示を解除してください。
- ③自動・手動切替スイッチは自動側にしてください。
※強制的に昼間・夜間にしたい場合には、自動・手動切替スイッチを“昼間”または“夜間”側にしてください。
周辺照度検出器（受光器）の検知に関係なく強制的に昼間または夜間モードに切替えることができます。
- ④障害灯が動作中は管制器内部の積算時間計が動作しています。
ランプ交換等で積算時間をリセットする場合には、積算時間計のリセットスイッチを押してください。

警報時の処置（ランプ寿命）

1) 前面操作部の警報表示ランプが点灯している場合、次のことを確認してください。

- ①障害灯が動作（閃光）しているか確認します。
動作（閃光）していない場合は、キセノンランプの寿命による断芯状態が考えられます。
この場合、障害灯表示ランプは消灯しています。
- ②管制器のしゃ断器をすべてOFFし、障害灯の取扱説明書を参照の上、ランプユニットを交換します。
- ③交換後はしゃ断器をONし、前面操作面の復帰スイッチを操作します。
警報表示ランプが消灯し、障害灯表示ランプが点灯することを確認します。

※ランプユニットを交換しても警報表示ランプが継続点灯している場合、
または、障害灯が動作（閃光）しているが警報表示が点灯している場合（閃光非同期表示ランプの点灯等）は、
納入した販売店または弊社までお問合せください。